

1974

# O.B 会報

第12号

横浜国立大学  
ワンダーフォーゲル部  
O.B会

Y W V 会員へ

O B 会事務局長 山下 久 男

Y W V O B 会再建総会が開かれて早くも一年を過ぎようとしています。それまでの無活動状態から見れば、O B 会もこの一年でだいぶその成果をあげてきました。しかし、まだまだ現在はO B 会という大世帯を運営していくというには、あまりにも、貧弱です。事務局が結成され、会報、名簿が発行され、会費も徴収されるようにはなりました。しかし、それらは当然なされなければならぬもので、ワンゲルのO B 会としての活動というものはほとんど無という状態です。四十八年度中には、具体的に上げていけば、四月総会、七月会報、名簿発行、八月 Beer Party、九月ハイキング、十一月大学祭、及び十二月現役追コンへの参加程度で、しかも参加人員が、甚だ少数であったということは、社会人であるO B という立場や環境を考慮しても、喜ぶべき状態ではないと思います。確かに、昨年の総会では成果をおさめました。それまで数年間、各会員が忘れかけていたY W V O B 会という存在を思

い出せたからです。そこには自分の青春が何か少しは残っている所です。同じ釜の飯を喰った仲間がいるのです。低時限の考えかもしれません。しかし、少くともかつて我々はワンダーだったのです。ワンゲルという活動に参加していたのです。知らない人を知り、土地を知り、大自然を知りました。それは大学の四年間で終ってしまふものだとは思えません。家庭を作り、仕事に没入する、当然です。しかし、ワンゲルの血は残っている筈です。高度な文明を離れ独自の力で知らない土地を歩き、友と語る、そんな思いがあるのではないのでしょうか。大学の四年間でそんな活動ではないのです。ワンゲルとは、個人の人生の指標とも言えるのではないのでしょうか。O B 会の発足もそんな所から出発したと思うのです。それは昨年四月の総会でも証明された筈です。来年度は、もっともっとその光を強くしていかなければなりません。会員も年々増えつづけ知らない人々が益々増えていきます。初期の人達と新しい人達とのギャップもひろがるばかりです。少くともそんなことはなくしていかなければいけないと思います。何かO B 会のP R のようになってしまいました。では具体的に来年度はどのようにO B 会を運営していくかということですが、事務局会としては、現在いろいろの問題をかかえています。組織的にもまだ未熟で会則、会計を考えても十分ではありません。しかし、O B 会という組織の目的はそんなものではありません。会員各自が持っているワンゲルの火を育てていくことなのです。それには、会員相互の親睦を第一の出発点として、意見交換、ワンダリングと発展していかなくてはなりません。それには、会員

みんなが、おたがいを知らなければなりません。大自然を、そしてワンドルを語り明かそうではありませんか。そんなOB会になれば、再建OB会も以前よりもっとすばらしいものになると思うのです。

## 山小屋へのいざない

八期 佐木、高橋

一月の初めに同期の田中さん、後輩の鈴木さんと妙高へスキーに出かけました。冷え込みが厳しいというのに恐れをなして、杉野沢の五八木荘へ宿を頼み、山小屋へは一泊ということになった。リフトを降りて、グレンデの向うの林へ滑った。晴れているなら良いが、吹雪いたときは方向が全く分らなくなる。小屋はグレンデの中央の小さな売店を過ぎ、下の方の林に向へば良いのだ。運よく空は碧く、太陽がまぶしかった。雪の中になつかしい赤い屋根が見えた。うす暗い小屋に入ると所狭しとばかりにキスリング、毛布、食料などが並び、ダルマストロブの周囲には、オーバースューズやヤッケなどがぶらさがっていた。そして厚いふとんがかけられたほり炬燵。大きなポリバケツに井戸からの水がたっぶり。人気のない深閑とした小屋を想像していた私は驚いてしまった。三年生を中心とした妙高登山のグループが一日前に戻ってきたというところだった。夜は十六、七名でスキヤキ風ごった煮に舌づつみを打ち、缶ビールで乾盃した。十二月半ばからいるという現役の顔は、雪焼けと汚れて真黒。そんなヤングパワーの明

るさと、タフさ加減に圧倒されながら、はるか昔の学生時代を想い出したりもした。

四、五年前の小屋は、雪が降り込み深々と冷えこんだ。それに比べるとずいぶん居心地が良くなったようだ。乾燥室やお風呂：と欲を言えばキリがないが。誰もが気軽にやって楽しめる山小屋にしていきたいものです。

山小屋は少しずつ現役の手で改造され居住性が良くなり、毎年使用者が増えています。OBの使用者が思ったより少ないのが残念です。冬期の小屋はスキーのかっこうのベースとなります。小屋にはいるのは冬期がもっとも楽でリフトを降りてからグレンデを横切り五分たらずです。

小屋からのもっともダイナミックなスキーは三田原山頂からの滑降で、黒沢池へも、小屋へもいずれも可能です。

スキーとワカンをうまく使えば妙高山に日帰りで登ることも可能です。

初心者ツアーコースとして笹ヶ峰、池の平などが考えられます。



## 東から西から No.1

各会員の近況をまとめてみました。今後の会報にも出来るだけたくさん情報をのせていくつもりですが、今回はその一回目、扶養家族の出来たこと、増えたこと、仕事のこと、山のこと、かつての仲間の現在の姿、意外や意外。尚一期の会員からの原稿が間にあいませんでしたので、今回は割愛させていただきます。次回をお楽しみに。

### 二期

卒業してはや十二年たった。その間多くの仲間が結婚し子供をもうけ、職場でもそれぞれ重要な地位について活躍している。ある者は労働組合の幹部を経験し、又ある者は学会出席で海外離飛を果している。公私共に多忙な毎日を送っている同期の横顔をいくつかご紹介しよう。

米屋勝利氏……入社以来研究所づとめ、最近は窯業学会のメンバーとして活躍とか。往年の弁慶も今はすっかり落ち着いた中年学者となっている。上の子は既に小学生。

塚原伸一郎氏……ワングル時代からの優等生は現在も変わらず、今や水処理のオーソリティー。最近は労組の副委員長にも挑戦した。本人より立派な名前の二児のババ。

藤林 徹氏……結婚は早かったが子宝に恵まれたのは比較的最近。家族でテニスをするなど充実した毎日を送っている様子、こ

れもひとえに奥様がしっかりしているからです。

宮崎 紘氏……嘉納先輩と共に関西では黒幕的存在、本当の意味でワングルの伝統を引きついでいる人です。几帳面な性格は相変わらず。結婚は遅かったが子供の作るのは早くすでに二人。ご立派。

岩上克尚氏……往年のガンちゃんもやっとなつたとか、ともかくおめでたいことです。今だに山に登っている数少ない一人。

北見美智子氏（旧姓岩村）……子宝に恵まれ（三児のママ）主婦業がすっかり板についた様子。お得意の教育効果をわが子に実現されたし。

多田裕子氏（旧姓氏平）……最近実家からデラックスマンションに転居した由。こちらも主婦業のベテラン。お幸せに。

残りの数名の同期も元気で活躍中のことと思うが紙面の都合でいずれ又の機会に。子供の話ばかりで恐縮です。

（吉野記）

### 三期

「何かあるか」

「俺なんかいたって変化なしだよ」

「女性運はどうかな」

「山に行きたい気持はあるけど子供に追われてそれどころじゃないってヨ」

「男だっって同じことだよナ」

「江崎にきいてみようよ。子供をつれて山やスキーに行ってい

るようだから」

「ところが今アメリカに行っちゃってないんだよ」

「本命がいなくて、特になしてことか」

「何もないのもしかだから、巻機報告でもしとくか。巻機はいゝ山だ。妙高や白馬はもちろんのこと、清水峠のむこうには富士山と奥秩父がみえ、その右に谷川、一ノ倉、茂倉、そして万太郎とみえるけど、その万太郎の両側に南と八ヶ岳がみえた。富士山がみえるとは思わなかったよ。去年の秋のことヨ」

(井上 記)

#### 四期

卒業後、十年経過し、まるっきり変身した四期です。

機械科出身の竹内が「いすず」から、週刊現代の記者に変わったのが、そもその間違いで、あのか弱き広瀬嬢が三人の男の子のお母さんに、小西六の谷が東海大附属高の先生に、独身主義の牧野、跡部がついに結婚、鵜沼を離れたことのない安部、橋出両嬢が、日本列島の果てに、永田の山への情熱が学問への情熱に、あの丈天な郡司や織田嬢が病気をしたり、谷上が三十の若さで邸宅を構えたり、山行きの多かった貞夫、寺沢嬢が、良きパパ、良きママになったり、センスある鮎田嬢が、むくつけき井田氏の令夫人になったり、とにかく変りました。

変身とは、以前にそれなりの存在があるからこそ発生する言葉であって、四期の十年前の姿は、今でも十六名の共通の宝であるアルバムとして、十六名の間を回覧しております。

十周年記念で、同期会を開こうとの声も、ちらほら出ていると

ころです。

(斉藤 伸記)

#### 五期

五期の連中も早いもので卒業後九年目を迎え、東西南北、高い所から海とかけまわったのも一昔の話に成りましたが、皆各々その道で活躍中です。(筆不精が多く、連絡無しの連中も居ますが便りのないのが無事の印と思っております。)

○片江英己

ヤマハ営業マンとして大活躍、自由ヶ丘の住人。一男一女の父ゴルフの腕も上げています。

○小玉信彦

異色銀行マンとして上野地区をウロチョロ、家庭では上馬にて一男一女の父として立派。マージャンの腕もこれ又立派。

○三ノ浦英一

昨年長男誕生、紳士振りにもみがきがかかりました。コララスでも活躍。久し振りに猪苗代にスキーに行っただけです。

○谷合成人

保土ヶ谷の住人。昨年長女も生まれ、ベテランコンピュータマンとして活躍。テニス、スキーにも熱中しています。

○高須 梓

清水ヶ丘近く、井土ヶ谷に住み一女の父。最近中年ブトリに悩んでいます。スキーは二回がやっととか。

○諸角夫妻

お互に夫が一人、妻が一人だそうですが子供は二男一女と御立

派。奥様は育児と美容体操、ダンナ様は船造りとスキー。(今だにボーゲンしか出来ませんとの事)

○中村夫妻

御兩人中年ブトリに悩み、胴囲りの大きさ互角、これに比べ長男はスマート。今年の正月は家族でスキーと平和な御家庭です。義勝氏ゴルフ開始、スマートに成る事を祈る。

○羽島継男

一男一女の父として公害のない鉄道をと国鉄マンとして活躍中。

○金子洋吾

スキー、ゴルフ、マージャン、テニスと優華な独身生活をおくっています。会社では営業マンとして、又、会社の山岳部で堂の現役振りを発揮。

○時田澄男

埼玉大学で学究の道を歩んでいます。お子さんはまだのようです。

○早藤哲夫(旧姓高橋)

京都近く、宇治市に住み二児の父として頑張って居ます。四月から私学経営に当たるそうです。京都へ行った方は寄ってみて下さい。

私もお陰で女房、子供とも元気ですが、昨年からのインフレで苦勞も多く、益々白髪が増えていきそうです。山もこのところ御無沙汰ですが、イワナ、ヤマメを追っての山の中の川歩きには精出しています。

(亀井記)

六期

このところバタバタと世帯をもったり、ボンボンと子供が生れたり、山などにうつつをぬかしている暇などないのが六期の現状のようで、まとまった行動は止まっているが、結婚式や転勤の送別会等で顔を合せている。

メンバーは北海道に二人、長崎には二人一組が行っているが、他十二名は首都圏におり、それぞれの生活をいそしんでいる。

もともと六期は冬山組が多くスキーをかく者は少なかつたので、冬山の準備を考えるとついつい敬遠してしまい、動きがにぶってしまっている。しかし北海道からはスキーの誘いが、長崎からは情緒あふれる町の便りがあったりして、行動の火種は消えていない。誰かが息をふきかければ炎は燃え上るだろう。

OB会の月例山行の復活を望むところだ。(密島記)

七期

七期のメンバーも下村、服部、小林、山田、井上の男性陣、橋本(佐々間)、森田(中島)、南雲(佐々木)、加納(岡村)、古宮(荒川)の女性陣も良きパパ、ママと成りました。四日市にいた八島君も東京へ転勤となり人生の良き伴侶を物色中です。又ワンゲル精神を発揮しスキーの名手として大いに独身生活をエンジョイしている北村、奥野両君、スキーが上達したい後輩諸君はぜひ教えを乞うべし。(但し女性に限る。)

現在海外で活躍中のメンバーも居ます。米国で研究中の林君、御主人と一緒に渡米中の南雲さん。新婚早々韓国転勤と成った服部君も一生懸命鉄鋼の売込み中、その他優雅な独身中の白神、細

田、能地、鈴木（塚田）さん。七期の連中も皆それぞれに多忙で会う機会がありません。これも幹事の松本の怠慢の為、ここで御わび致します。又七期には独立した宝石ブローカーの小林君も居ます。御婚約指輪はぜひお申し出下さい。（松本記）

## 八期

南の方から、オーストラリアに嫁さんもらったばかりの小谷、長崎に上島、尾道に須藤、名古屋に明村、小出、早坂が東京に転勤となり、残りは東京、横浜にちらばっています。昨年十月に池原が結婚し、今春もう一人が結婚の予定で八期の十五番目です。平沼がきれいな奥さんをつけたともっぱらの評判です。二世の誕生も続々、近いうちに子供連れの山行も可能でしょう。上島、須藤が南の山を歩いているぐらいで、山に出かける連中も少なくなっており残念です。楠木さん、武藤さん、綾部さん（?????）学校に育児に毎日がんばっています。（佐木記）

## 九期

卒業後、はや五年目の春を迎えようとしている九期の仲間は、経済六名、工学七名、学芸四名、計十七名であるが、それぞれの職場で、世のため人のため活躍している。その仲間も、東京近辺の朝倉、天笠、馬場、三浦コ、上原、寺本、日渡、木下、山泉、尾崎、加藤の他には、神戸に近藤、和歌山に松川、犬山に三浦正、大町に鈴木ヤ、富士に塚本、高松に一村と、地方に散在している。それでも新年会や結婚式などで、時々懐かしい顔を会わせているが、その仲間もすでにパパママになったのも含めて九名がゴ-

ルインしており、今春には二名（近藤、松川）が予定されている。また、毎年二月には、九期でスキー合宿を行なっているが、今年には二月連休に総勢九名で南志賀（七味温泉ホテル）に集結して、白銀の世界にあざやかなシャブールを画いて、アフタースキーとともに多めに楽しんだ。数年のうちには、子連れスキーになりそりであるが、ぜひ続けていきたいものである。フレーフレーワンデル。フレーフレー九期。（上原記）

## 十期

酒に酔い、いい気持でテレビを見ていたら、突然電話のベルが鳴った。今頃、彼女から何の電話だろうと受話器を取れば、何たることか、男の声で原稿の催促である。何しろこの私、会社ではベイベイなれどTEC山岳スキー部幹事、TEC小倉寮長等肩書が五つも六つもある忙しい身なれば、思うように暇をつくるもままならず、更には十期の連絡の悪さときたら現役時代から悪名高く、期限ギリギリでやっと書いているのがこの乱文なのです。

さて、我が十期の諸君は如何しているかと思わせば、今世紀末には地球上の人口が現在の二倍になるといふ人類の危機をも顧みず既に結婚したのが今の処三人位。大塚夫妻は現在ニューヨークに出稼ぎ中、伊藤元主将は商社の荒稼ぎの中で奮闘しているそう。女性二人及び他の野郎共の活躍ぶりは具にはわかりかねるので、では割愛させて戴きたい。御免蒙。（山本記）

## 十一期

我々十一期も、ワンデルを追出されて三年が経ち、各自が様々

な所で働いている。もっとも、一年遅れた者、二年遅れた者とい  
るが、去年よりは全員無事に学校より離れて社会に出ている。

十一期は比較的東京近辺に住んでいるものが多く半数である。  
したがって東京近辺に住んでいる者達で一年に一度位は集まって  
飲みに行ったりしているし、又個人的に会ったりしている。東京  
近辺には、丸山純、丹羽、高橋、中林、桜井とあり、地方には、  
西から、岩国に稗田、大阪に石橋、伊那に野田、三島に大森、南  
足柄市に榊原といふ。地方にいる者とは仲々会う機会がないが、  
皆元気で働いているようである。

我々十一期も二十五(二十七)才になり、そろそろ結婚する者が  
出てきても不思議はないが、五月に石橋が結婚する予定を除けば、  
他の者は結婚のケの字のみか、女の子と付き合っている者の噂も  
あまり聞かない。しかしこれは深く静かに潜行している者がいる  
のではないかとも思われるのだが、定かではない。  
今後我々十一期はあわてず、さわがず生きていくつもりであ  
る。

(桜井記)

#### 十二期

我等十二期、一声かければすぐ集る十二期、会えば結婚の話ば  
かり出てくる十二期、でも誰も決った人もいない十二期、やっと  
全員が自分の進む道が決った十二期。

まだまだ私達は若いのです。山にも登ります。冒険心も忘れて  
いないのです。勉強もしなければなりません。仕事も楽しいので  
す。

○出張で忙しい忙しいと悲鳴を上げている榎本君。

○今年の冬は毎週スキーに行ったという山川君。

○先生の賞禄がそろそろ出てきました、ちよっぴりスマートにも  
なつた望月さん。

○丸善石油に入社し、大阪へ行かねばならず、彼女と一時的に分  
かれなければならぬ岡戸君。

○OLから先生に転進、お嫁さんへの転進へはいつ桐生さん。

○郵政省の公務員、三度目の正直です。おめでとう左藤君。  
○最後は私、大学もおいだされ、今は毎日早起きして東京築地で  
はりきっています。

以上七人、なぜか我等十二期なのです。

(山下記)

#### 十三期

我が期においては各人シコシコと頑張っているようですが、い  
まだ色良い話はありません。今後、各人の努力に期待しましょう。  
さて、海保が卒業し、横浜市立川上小学校、養護学級に就職が  
決まりました。また、小沢さんが左記の住所となりました。

北海道野付郡別海町美原、ヤマギシズム北海道試験場

この試験場にて共同生活をしているそうですので、暇をみて手紙  
を出し励ましてあげたらと思います。

(海保記)

#### 十四期

僕らが今度新しくOBになります。鶴飼紀夫、小口雄平、狩野  
一子、鈴木道夫、高木展郎、鶴岡一、西井節子、曾根原靖子の八  
名です。高木は東京の中学校、鈴木は信越化学(彼は直江津へ  
行きたいと言っております)、小口は長野県庁、西井さんは市立

釜利谷小学校、狩野、曾根原は神奈川の小学校に勤める予定です。OBの皆さん、十四期もよろしくお願ひ致します。

(小口記)

### 「風がうたうとき」紹介

ワングルの生んだ偉大なる詩人NONこと井上氏(三期)がこのほど詩集「風がうたうとき」を発表しました。井上氏の文章には、スカイライン、山小屋日誌等の中で会員の皆さんもおなじみになっていると思います。この詩集にも氏独特のロマンチックで多少ユーモアのある詩があふれています。氏はワングルを卒業し、日立製作所に入所してからも、常に詩作にはげみ、組合の機関紙に発表していたそうです。それをこの度まとめ、自費出版の運びとなったそうです。それではこの中の一つを紹介しますが、この「ねむの花」は鳥海山のイメージだそうです。尚、皆さんの中でこの「風がうたうとき」をほしい方は、まだ部数に余裕があるそうです、五百円でわけて下さるそうです。

#### ねむの花

ほっそりとしていて  
とてもかわいいのです  
とても山に行くなどとは思えません  
その彼女が  
自分の肩幅より大きな

ザックをせおい

ひょうひょうと登って行くのです

汽車をすてた駅には

ねむの木がありました

そのねむの花の下で

彼女をみつめました

ぬいたりぬかれたりして登るうちに

山の花をおそわりました

そして頂上の

岩の穂先で歌をうたい

日本海に沈む夕陽をながめ

夜は山小屋のランプの灯に

目をキラキラ光らせながら

話をしてくれました

でも

どうしても信じられないのです

彼女にはもう子供がいて

時々ご主人に家事をあずけ

思いきり汗を流しに

山に出かけているなんて

ねむの花がまた

私を山にさそっています



## O B 会の利用法

- 一、昔話の場として
  - 二、結婚相談所として
  - 三、旅行時の宿泊費用を安く上げるために
  - 四、将来、議員となるための布石
  - 五、仕事の情報源として
  - 六、昔の恋人に会う為に
  - 七、馬鹿な遊びを正当化する為に
  - 八、子供の教育相談の場として
- そうです。いろいろあるでしょう。今年のO B総会にも、いろいろな気持ちで、いろいろな人が集まることでしょう。

昨年は、  
松本会長を始め、吉野、米屋、塚原の仲良し三人組、井上肇、

井田の三期コンビ、静岡の若旦那、高橋俊さん、関西からははると嘉納御大、渡辺 支部長、諸角さん、四日市代表の小島さん、今は韓国の服部さん、跡部、谷上、斉藤伸、郡司、谷と揃えた四期、諸角、高須、亀井に、中村夫妻を加えた五期、八島、服部、能地に小林夫妻、独身の坪嬢、鈴木博嬢を加えた七期は、量で圧倒。六期は、菅谷さん一人で、ちょっぴり寂しい。八期が、須藤森、佐木、田中のカルテット、九期、十一期が、上原、日渡、山本、榊原、桜井の各氏、十二期、十三期は、山川、岡戸、山下、榎本、左藤、望月、宇佐川、竹村、中村、村松、海保、太田、吉里、赤松、小沢と、ほぼ全員集まる優秀さ。ぞくぞく集まりました。

今年は、一体、どんな人がくるか、今から楽しみです。うらかな春の日、久しぶりに顔を合わせ、お互いに利用し合い、氣勢を上げようじゃありませんか。

来る四月二十一日(土)、午後一時より武蔵小杉のユニオンビルに於て、Y W V O B 総会を開きます。くわしいことは別紙にてお知らせいたしますが皆さん御出席下さい。尚、当日のプログラムには、各期の近況報告。四十八年度活動及び会計報告。O B 会の将来についてのフリートークキング等を予定しています。昨年の総会で燃え上った炎を、益々強いものにしていく為、意欲的な姿勢での御出席を希望します。